

## 逆瀬川と昆陽井川を歩く

第 57 回 武庫川エコハイク  
2012. 1. 14. エコグループ・武庫川

**武庫川** 全長 65km、流域面積 500km<sup>2</sup>。篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

2 級河川だが流域に阪神地帯を抱え流域人口では全国第 10 位である。「阪神間の母なる川」である。上流から三田盆地までは緩やかに流れ、中流には武庫川渓谷で V 字谷になる一風変わった川である。この渓谷は六甲山の隆起とともに武庫川に洗刻された先行河川である。ここに県営ダムを作る計画があったが豊かな自然環境を破壊するすることで反対する市民運動が持ち上がり、県は流域住民を含めて武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、22 年 10 月、ダムは検討に時間がかかることから、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなり、平成 23 年 8 月正式に決定された。

**逆瀬川** 六甲山系大平山南側を源流として花崗岩の六甲山東麓部を流下し宝塚ゴルフ場を経由して宝塚市で武庫川に合流する。延長約 6.5km、標高差約 200m の急傾斜の河川。川が逆流するとか流れが早いことから「逆瀬川」の名前がついたといわれる。

**菜切橋** 菜切(なぎり)は地名、水がそれる意味の「なぐれる」からきているという。ここで良元用水が小林と伊子志に分岐する。

**良元用水** 良元用水は逆瀬川駅西で小林地区と伊子志地区に分水される。武庫川右岸の良元地区の農業用水である。

**伊和志津(いわしづ)神社** 醍醐天皇の延長 5 年にまとめられた延喜式内社のひとつ。祭神は須佐男命本殿は一間社春日造柿葺、市の指定文化財。

**中州** 逆瀬川左岸の地名。武庫川治水工事が行われる前は武庫川の中州であった。平塚嘉右衛門が中州楽園を開いた。中州温泉、宝塚ホールなどがあった。

**伊子志用水(いそし)** 伊子志井堰から導水される用水。

**伊子志の渡し跡** 西宮街道(中山道)の渡し跡。文政 5(1822)年から大正 8(1919)年までであった。船料は無料で中山寺が寄進したという。対岸に渡し跡の碑がある。

**末広中央公園** 武庫川治水工事で造成された土地で旧三和銀行のスポーツ施設であったが、宝塚市が買い取り防災公園とした。(平成 6(1994)年オープン)

**昆陽井堰** 武庫川左岸の井堰のひとつ。伊丹市の農業用水および上水の取水井堰。

**昆陽井川(こやゆがわ)** 昔から農業用水を井(ゆ)と呼んでいる。伊丹西部地区の農業用水。

### 武庫川下流部の井堰

- ①川面井堰 武庫川左岸の井堰、以前は宝来橋上流にあったが現在は観光堰の中にある。
- ②伊子志井堰 武庫川右岸の井堰、逆瀬川合流点上流にある。
- ③昆陽井堰 武庫川左岸、旧チボリ前にある。
- ④百間樋井堰 武庫川右岸の西宮市の農業用水および上水の取水井堰、仁川合流点上流にあり、仁川下を百間樋で抜ける。

⑤六樋 かつてあった野間樋、生島樋、武庫樋(以上西昆陽村)、水堂樋(常松村)、守部樋(常吉村)、大島樋(西武庫村)の 6 個の取水樋があったが、大正年間の武庫川改修に伴い 6 樋が合併し昭和 3(1928)年六樋が設立された。仁川合流点下流にある。

**大堀川** 売布の菰池より流れる大堀川は旧小浜宿北面、西面、南面を巻いて流れチボリ付近で昆陽井の水をあわせ、武庫川に合流する。合流直前に分流し昆陽井川となる。

**伊丹市上水取水口** 昆陽井堰は伊丹市上水の取水口でもある。

**武庫川新橋(しんぼし)** 平成 6 年竣工した。それまで宝塚新大橋と国道 171 号線甲武橋との間の空白を埋めた。

**関西電力伊丹変電所** 関西電力の大阪環状変電所のひとつ。

**大樋橋(おおひし)** 天王寺川に架かる橋。昆陽井川が川の下をサイポンで立体交差する。天神橋の改修までは木樋が天神川を横断していた。

**天王寺川** 中山寺の足洗川、勅使川を源流とする川。途中天神川が合流する。

**伊丹の水とみどりの散策道** 伊丹市には「水とみどりの散策道」が 10 個設けられている。大樋橋東の十六名公園を起点として阪急稲野駅までの「有馬古道コース」の一部。

**横手堤と尾なし堤** 旧武庫川の堤跡。いわゆる霞堤。

**春日神社** 祭神は天児屋根命(あまのこやねのみこと)。天平 3(731)年僧行基が聖武天皇の勅願によって猪名野笹原を開いたとき昆陽上池、下池を作り衆民を救済された。この時奈良春日大社の御分霊を祀り、下池鎮護の宮として三社が建てられたが、昭和 53(1978)年ここに合祀された。池尻地区の鎮守。

**昆陽池** 天平年間(8 世紀半ば)僧行基が開いたといわれる。窪地となっていたこの地に上池、下池を作ったが、後に下池は埋め立てられて農地となった。上池は現在県立昆陽池公園、伊丹市上水道の貯水池として利用されている。県立公園は野鳥の探鳥会のメッカでもある。

**昆陽下池の跡 昆陽池陥没帯** かつて昆陽池の下に昆陽下池があったと伝えられる。この地区は昆陽池、下池と連なる 2 本の断層「昆陽池陥没帯」に挟まれ陥没地続いていた。

**尼宝線** 武庫川左岸の南北交通を旨として尼崎と宝塚を結ぶ鉄道が大正年間に計画されたが途中で自動車専用道路に変更され、昭和 7(1932)年尼崎市西大島と宝塚歌劇場前との間役 10km が開通した。この道路はバス専用とし一般車両は有料という関西初の自動車専用有料道路となった。有料道路は昭和 17 年まででその後は県道に編入された。

**花里小学校親水空間** 花里小学校西側昆陽井川に親水空間が設けられている。

**昆陽寺(こやでら)** 天平 3(731)年、僧行基が作った昆陽施院が発展して昆陽寺となったと思われる。伽藍は信長の有岡攻めで焼失し、江戸時代に建て直された。山門、観音堂と開山堂の広目天、多聞天立像は県の指定文化財。かつては多くの塔頭があった。

**旧西国街道** 昆陽寺の南を京都東寺から西国への往来道の旧西国街道が通る。

**四つ治(よつごう)** 昆陽井川の分水樋。昆陽寺下流で昆陽井川は 4 つに分流される。昆陽用水、寺本用水、御願塚用水(ごがづか)、南野用水で、寺本用水は平田溝と熊野溝に分かれる。

この事業はコベルコ自然環境保全基金の助成を受けています